

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位 (時間)	科目担当者
臨床薬理学	1年次	必修	講義	1単位 (30時間)	小丸 圭一
授 業 概 要					
薬物の生体内動態、薬物の特徴、作用機序及び副作用や薬物の変化、人体への影響について学習する。					
到 達 目 標					
1) 薬の作用機序及び薬効と副作用などの関係について説明できる。 2) 薬物療法の基礎が把握でき、薬の種類、治療効果の変化と検査データとの関連が説明できる。					
回	学 習 内 容				担当教員
1	薬理学とは	薬の歴史、薬の使用目的			小丸 圭一
2	薬物	作用と受容体、用量・用法			〃
3	薬物の移動	薬物動態 (吸収・分布・代謝・排泄)			〃
4	薬力学	薬物の効く仕組み、麻酔薬・睡眠薬			〃
5	薬物の生体因子	個体差・性差・遺伝による影響			〃
6	薬物相互作用	薬物と食物、有害作用・副作用、中毒			〃
7	治療薬(1)	炎症、感染症、自己免疫疾患の治療薬			〃
8	治療薬(2)	腫瘍 (悪性・良性) の治療薬の治療薬			〃
9	治療薬(3)	代謝・内分泌の異常による疾患の治療薬			〃
10	治療薬(4)	脳・神経の疾患、精神の疾患の治療薬			〃
11	治療薬(5)	血液の疾患の治療薬			〃
12	治療薬(6)	循環器の疾患の治療薬			〃
13	治療薬(7)	腎臓・泌尿器の疾患の治療薬			〃
14	治療薬(8)	消化器の疾患・呼吸器の疾患の治療薬			〃
15	治療薬(9)	感覚器の疾患の治療薬			〃
学 習 方 法					
臨床工学にとって薬理学の知識は生体機能代行技術学と密接な関係がある。学んだことをしっかりと復習して理解する。不明な点は必ずその場で解決すること。					
評 価 方 法					
学科試験により評価する。					
先 修 科 目					
教 科 書、参 考 書					
〔教科書〕 疾病の成り立ちと回復の促進「薬理学」第3版 中嶋敏勝 医歯薬出版					